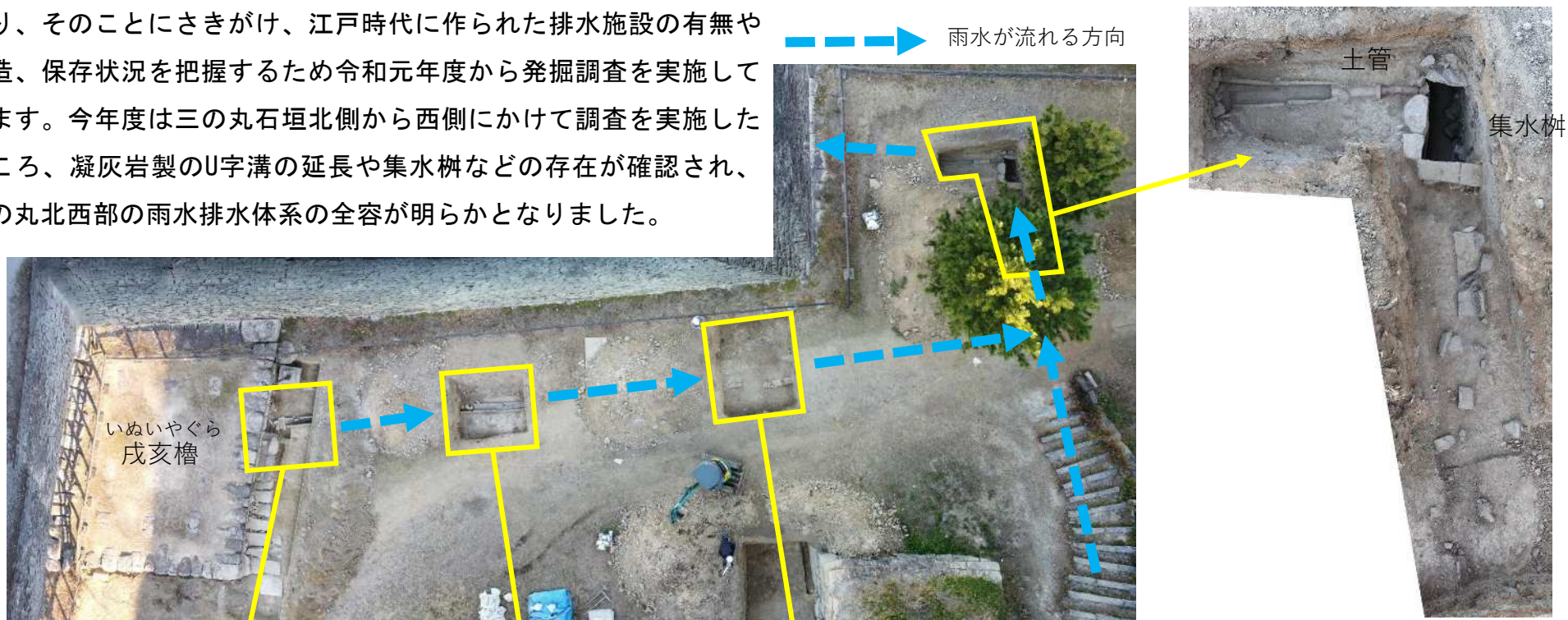


史跡丸亀城跡三の丸発掘調査現地説明会資料 令和4年2月20日（日）10:00～12:00
丸亀市教育部文化財保存活用課

現在、丸亀城跡の石垣保全を目的とした雨水排水整備を予定しており、そのことにさきがけ、江戸時代に作られた排水施設の有無や構造、保存状況を把握するため令和元年度から発掘調査を実施しています。今年度は三の丸石垣北側から西側にかけて調査を実施したところ、凝灰岩製のU字溝の延長や集水枡などの存在が確認され、三の丸北西部の雨水排水体系の全容が明らかとなりました。

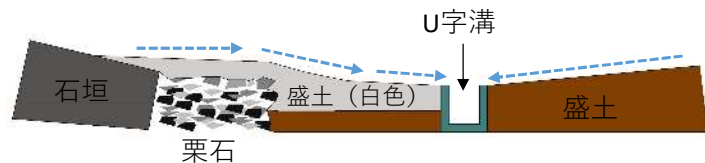


三の丸石垣北側の雨水排水経路は、戌亥櫓からU字溝を伝い、東へと向かいます。その後二の丸から流れてる雨水と合流し、北へ向かい集水枡へと流れこみます。その後西に向きを変え、石垣から出る石樋へと排水されます。

土管によるU字溝の修理や集水枡から1銭硬貨が見つかるなど、江戸時代だけでなく明治時代でもこの排水経路を活用していたのかもしれません。

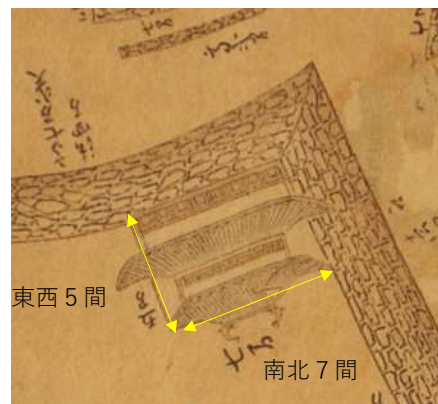


U字溝設置模式図



凝灰岩製のU字溝は両側の盛土のゆるやかな傾斜により雨水が集まる仕組みになっています。特にU字溝と石垣の間にはパックするように白色の盛土が敷かれ、途中でU字溝側に低くなるように傾斜を変えていることが確認できました。

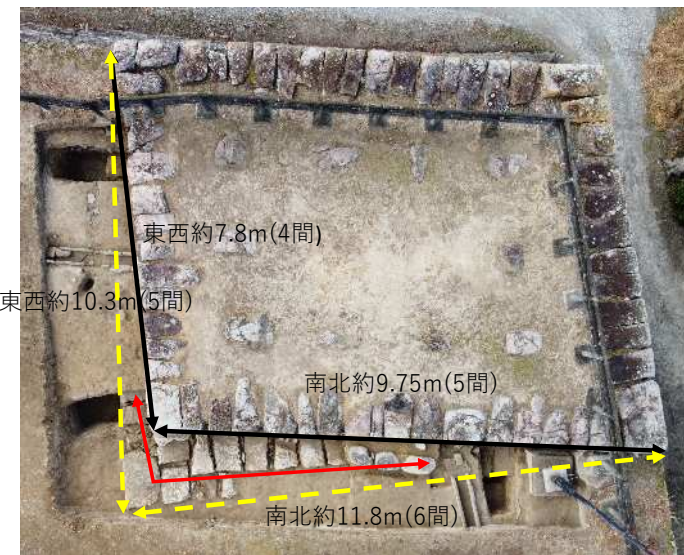
U字溝の設置方法は、雨水をできるだけ集め、石垣側へ流れ落ちないようにという当時の人の意識が見てとれます。



山崎時代の丸亀城郭絵図 (1657年頃)



丸亀城木図 (1670年頃)



戌亥櫓の下層から地上部の石垣と形の違う別の石組が2つ検出され、櫓台が2回に渡って改修された可能性が考えられます。また、改修の度に大きさや高さ、平面形も変化しることが確認できます。